



みやかわ たかゆき
宮川 隆之氏 (77歳)

古府町

音楽を通じて地域文化の振興、発展につくされる。

氏は、昭和28年崎山村立崎山中学校勤務を初任地に教職の道に進まれ、平成元年七尾市立北星小学校長を最後に退職されるまで、一貫して地方教育の充実と振興に貢献されました。

音楽文化面に情熱を持った氏は、昭和42年に七尾市音楽教育研究会を結成、昭和46年には、音楽10団体連合で結成された七尾市音楽文化協会の事務局長として運営にあたり、以後、組織の発展、市の音楽文化活動の振興に多大な貢献をされました。同組織が発展的に解消、新たに組織された七尾市文化協会においても、組織運営に尽力され、文化活動の充実に向けた取り組みを精力的に進められました。その間、平成元年には能登全域からなる合唱団の共演「第九七尾公演」、平成4年には国民文化祭「グリーンライブ事業」など、数多くの事業を推進されました。

また、平成7年度から4年間にわたり開催された文化庁による「文化のまちづくり事業」など、市民と行政が一体となって進める事業においても成功に導かれました。

また、地元で古くから伝わる民謡、童話を伝承していこうと開催された「発掘民謡講習会」では、市の民俗文化遺産の特徴や価値を解説し、広く市民への普及に努められました。特に音楽文化遺産の記録出版事業においては、ひたむきな情熱で、音楽文化の継承に努められました。加えて、昨年開催された日本民俗音楽学会七尾大会では、実行委員長として卓越した手腕で成功に導き、能登七尾の民俗音楽が全国関係者の関心を高めるまでにいたしました。こうした地域文化の振興、発展につくされた氏のご功績は、誠に顕著であり、高く評価されるものです。



きのした あつし
木下 惇氏 (63歳)

庵町

漁業の発展・振興につくされる。

氏は、昭和32年4月に岸端鰯網組合に入組し、漁師一筋に生きてこられました。副船頭、大船頭を勤め、定置網の規模や水揚げ量を国のトップクラスに押し上げ、地元青年の地域定着に導かれるなど、地域産業の振興に貢献されました。

昭和63年9月、岸端鰯網組合と庵・百海の定置網が合併して発足した岸端定置網組合は、2ヶ統だった漁場を1ヶ統水深130m地点に冲出しし、3ヶ統にする計画がたてられました。全国でも100mを超す定置網は、例がなく困難が予想されましたが、この年、大船頭に就任した氏は、敷設に挑戦、徹底した調査、資材選び等により成功に導かれました。

また、魚の入網増、潮流対策に工夫されるとともに、出荷調整を日常化させることなども実施されました。さらに、県内で初めて殺菌冷海

水装置を導入し、「新鮮で安全・安心」な魚の出荷を定着させるとともに、魚価のアップを図り、水揚げの増加による安定した経営、将来性のある漁業として確立されました。また、日常の業務内容も改善され、若者にとって魅力的な職場を実現させ、地元定着につなげられました。

さらにまた、石川海区漁業調整委員、石川県定置網漁業組合理事、定置網技術研究会会長、ななか漁業協同組合理事としても活躍。『石川四季の魚』『いきいき七尾魚』の普及発展に力を注いでいます。漁業に対する情熱、先見の明に関しては、石川県はもとより、全国の漁業関係者から高い評価を受けています。

こうした漁業の発展・振興につくされた氏のご功績は誠に顕著であり、高く評価されるものです。